

---

# 神父服の彼

サソリ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神父服の彼

### 【コード】

N8082X

### 【作者名】

サソリ

### 【あらすじ】

神父服を着た騎士の物語。

転生キャラではないのでご注意ください。

1・0 研究所(前書き)

不定期です。

今回は三人称オンリー

## 1・0 研究所

雲一つなく月が爛々と輝くある日。既に時間は深夜であり、多くの者は寝静まっている。

そんな時間帯の古びた研究所には一人の神父服を着た少年と、修道服を着た小柄な少女の姿があった。

研究所の中は長らく使われていないようで、至る所に埃が被っており散々たる状況だ。

「ホントにあんのかよ。」

「周りに気を付けてね。あんまり変な場所とか触ったらダメよ?。」

「……ユニゾンデバイスのくせに偉そうにしゃがって」

「何か言った?。」

「別に」

自身の肩に乗る小柄な少女の声と研究所の状況を見て、溜め息を吐き、苦々しい顔をする。

少年は自身の赤い目をキョロキョロとさせ、何やら探し物をしているようだ。年の頃は、大体12歳といったところか。

あどけなさが全身から溢れており、研究所の異様な雰囲気と重なり奇妙な光景となっていた。

その少年は、一言で言えば端正な顔立ちをしている。

その顔は少女に間違われることはないだろうが、整っており10人中7人は振り向くであろう。

一方、少女は長い金髪と青く澄んだ瞳をしている。そして端正な顔立ちをしており、修道服も着用している。

「おっ、これか」

どうやら探し物が見つかったらしい。

少年は長く腰まで伸ばした灰色の髪をなびかせながら、目的の場所まで歩く。

「ちょっとクウェス！いきなり触ったらダメよ？ちゃんと確認してからだからね！」

そして古びた戸棚まで近付くと肩で騒ぐ少女を無視して躊躇するこ  
となく、ガラス張りの扉を開いた

その時

辺りに騒々しくサイレンが鳴り立てて始めたのだ。それは一つのこ  
とが決定したことであり

「はあ！？何で警報装置が作動してんだ！？」

その音を聞いた少年は戸棚の中にあるモノをしっかりと取り出しな  
がら、怒ったように声を荒げた。

「……だから勝手に触るなって言ったのに」

その少年の肩の上では、少女が目も当てられない、と言った感じに  
呆れている。

「ルナ！何で止めてくれなかったんだ！」

「アタシは止めたわよ！この馬鹿クウエス！」

「ちげえよ！この施設の防御機構をだ！この馬鹿ルナ！」

「ここに入る前にアンタが止めなくていいって言ったんでしょ！」

「……って、喧嘩してる場合じゃねえよ」

「無視!？」

そう少女ルナが言った瞬間、研究室の扉が開いたかと思うと、次々に人型のロボットが入ってきた。

「うわっ。捕縛用じゃなくて殲滅用の機体じゃないか。一体、この研究所は何してたんだろな？」

「どうせ祿でもないことよ。」

「まあ、それはそうだが」

「ほら、早く片付けて帰るわよ」

そう呑気に話をする二人に構うことなく、侵入者を排除するために動き始めたロボット達は素早く少年クウエスに近付く。

そしてその一体が持っていた鈍器を躊躇なく勢い良く振り下ろした。

ドオン!という力強い音が辺りに響く。なかなかの力で振り下ろされたようだ。生身の人間では太刀打ちできないだろう。

砂埃が辺り一面に舞い、晴れる頃にはクウエスの無残な姿が

「よええ」

晒されることはなかった。

クウエスは、その場に立つたまま右手で鈍器を受け止めており、一方ルナは眠たげに目をこすっていた。

「ほら、目的物は入手したんだから早く帰ろうよ。カリムにまた怒られるよ」

「へいへい。それにしても、やはり昔のガーディアンは弱いのか」

クウエスがそう言いながら、右手に黒光りの魔方陣を展開させ、持った鈍器に力を入れた瞬間

弾けた。

鈍器だけではない。それを持っていたロボットまでもが、跡形なく弾け飛んだのだ。

「よええ」

ルナに叩かれ、歩きながら、赤い目をキラキラと獰猛に輝かせたクウエスは

「だが、練習相手にはなるか」

次のロボット（獲物）へと右手を伸ばした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8082x/>

---

神父服の彼

2011年10月22日06時14分発行